

日本基督教団 東中国教区ニュース



東中国教区
教区ニュース誌委員会
〒770-0005
倉敷市鶴形一五五
倉敷キリスト教会館内
TEL 086-422-1780

イースター説教

「心燃える出会い」

岡山教会 副牧師 伊勢 希

ルカによる福音書

二四章二三節～三五節



今回の箇所はイエスの死後の話です。弟子たちはイエスと出会いながら二人の目が遮られていた為、イエスだと分かりません。十六節を直訳すると「彼らは目が見えるという力を彼ら自身によつて妨げていた」となり、二人がイエスだと分からなかったのは、彼ら自身に問題があったとしています。つまりイエスが復活するはずがないという弟子たちの思い込み（頑なさ）により、彼らはイ

エスだと気づけなかったと聖書は伝えているのです。

この箇所に興味深いことは二つあります。まずイエスだと弟子たちが分かったのは食事をする時であった、ということ。そしてイエスだと分からない時でも道で話していた時、聖書を説明してもらっていた時、彼らの心は燃えていた、ということ。食事をするというのは日常です。つまり何か特別なことをしなくても私たちはイエスと出会えるということ。またイエスだと分からない時であっても二人の心が燃えていた、という言葉は、常に自分たちの心を燃やす出会いが実は与えられているのだということを、この箇所は教えているのではないのでしょうか。私たちが気づいていないだけで、いついかなる時もイエスは私たちを招き、出合い、語りかけてくださる方なのだと聖書は語るのです。

私たちは今、様々な不安の中を生きています。新型コロナウイルス、世界情勢、そして自然災害。それだけではなく、私たち一人ひとりも悩みを抱え、

目次

イースター説教	1
第二回宣教会議報告「教区総会オンライン開催について」	2
「二・一」集会（平和集会）の報告	3
「倉敷市民クリスマス」	4
「絶たれた献身の道」戦犯にされた元玉島教会員	5
「第七回『障がい』を考える全国交流会」	6
「退任教師挨拶」	7
「こんにちば」のお部屋・編集後記	8

痛みを抱えながら日々を過ごしています。そのような日々の中で、時に今回の弟子たちのようにイエスが見えなくなる。共におられるのか不安になり、孤独さえも感じてしまう時があったのではないのでしょうか。

しかし、この箇所はそんな私たちに「大丈夫だ、常に私はあなたの方と共にいる、どんな時も共に歩んでいる」ということを伝えます。私は過去を振り返る時、確かに孤独を感じた日々を思い出します。しかし同時にこれまでの歩み、特にこの五年間の岡山での歩みを振り返る時、共に聖書を読み、祈り、賛美を捧げた時、何気ない会話や食事の席において、心燃える時が確かにあったのではないかと思ひ返すのです。

イースターを迎えました。イースターはイエスの復活を意味するだけでなく、弟子たちの中にもう一度イエスが宿った時であると私は思います。私たちはこの時、自分の頑なさを打ち壊し、イエスを迎え入れ、心燃える出合いを重ねていきたい、そう願います。

第二回宣教会議報告

「教区総会オンライン開催について」

副議長 中井大介

さる二月二十八日にオンライン形式で東中国教区第二回宣教会議が開催されました。「各地区各部委員会報告」、「将来的東中国教区宣教について」、「次年度予算に向けての懇談」に続き「教区総会オンライン開催準備について」という議題が新たに加えられました。第六回常置委員会において次回総会開催をオンライン形式で実施するために、宣教会議に参加する各メンバーとともに課題について協議し、オンライン開催に向けての問題解決と協力体制を整えることを主旨とする懇談でした。

教区総会のオンライン形式での開催は、東中国教区では未経験です。しかし、教団の諸教区の中では昨年度中に一部及び全体にオンライン形式を取り入れた総会を開催したところもありました。東中国教区でも委員会レベルではオンラ

イン開催は常態化して機能しています。常置委員会では、それらのオンライン会議の実施経験などを調査し、協議を重ね、この度の宣教会議で集う方々、とくに各地区長や各部委員長の知見を加えて具体的にオンライン形式の教区総会の実施可能性を探ることとなりました。事前に教区から発送していた「教区総会オンライン開催について」文書には二人の教師から懸念と反対の意見をいただいております。それらに含まれる課題を受け止めながら準備を進めています。すでに実施している「オンライン化支援運用資金」に加えて、教区総会用にポータブルWi-Fiの貸与の準備をし、各地区でオンライン接続のためのサポートについてのヒアリングを行います。そのうえで教区主催の接続テストを二回開催し、総会前にオンライン形式での議案説明会を実施するという三段構えを整えてから、総会当日を迎えるという日程を進めていくこととなりました。

第七十一回教区総会では、教団総会議員選挙を実施する必要がある、また、それ以外の議案についても可否の判断

が求められます。オンライン形式に加えて、各議員一人一人には採決用紙を事前に紙媒体で送付し、オンライン総会当日には決することのできない議案については紙媒体での賛否を問うハイブリッド形式を採用します。総会への参加については、教会から複数議員に参加していただく場合と、地区会場を設置して複数議員に参加していただく場合に加え、各個人で参加できる方は各自で参加するという形式を選ぶことができます。総会では議事運営委員会とともに特設のオンライン支援担当者を選定し、総会参加者のサポートを行います。

事前にいただいたご意見や、宣教会議で語りあわれた内容も、私たち自身が未経験の出来事に一齐に参加するという点での不安に基づくものが多くありました。それと同時に互いが支え合いながら、一歩踏み出していくという決断を共有できたようにも思えます。東中国教区の宣教の場をオンラインにも広げていく歴史的な一歩を皆様と一緒に経験していきたいと思えます。

二・一一集会 (平和集会)の報告

東中国教区社会委員会 延藤好英



講師の渡邊さゆり師

主催は例年通り超教派の実行委員会。講師は渡邊さゆり牧師（マイノリティ宣教センター共同主事）。テーマは「ミャンマーの現状とわたしたち」。集会形式はZOOMで行った。参加者は五三人であった。その内教区外の方が十人。

「今日紹介する写真はSNSに上げないでください。命の危険があるからです。」講師からのこんな言葉をお聞きしてスタートした、今回の「二・一一集会」であった。

二〇二一年二月一日に起こされた国軍によるクーデター。それから一年が経過し、今もその軍政は続いている。その間千五百人を超えるミャンマー国民が国軍によって殺され、多くの人々が投獄され、家を焼かれた。ある四十代の牧師は、焼かれている教会の消火活動をしようとして銃で撃たれ殺された。兵士は彼の腕時計を奪い、指を切り落として結婚指輪を奪った。投獄された人たちは拷問を受け、女性はレイプされている。子どもたちは連れ去られて殺されている。「どうしてこんなひどいことができるのか」との問いに「戦時中の日本兵からされたことをしている」との答え。

百四十四万人の人たちが国境近くに避難している。野宿しながら山の中で暮らし、子どもたちのために学校を開いている。多くの国民が軍政に反対し、抵抗し、抗議している。指を三本立てて国軍への不服従を表明し、夜八時に鍋をたたき、夜間外出禁止令が出れば、あえて夜中にロウソクに火をともして夜間デモをし、人が殺されるようになれば人形を並べ、若い人たちはSNSを用いて自分の言葉で世界に向けて発信している。

日本政府は有効な人道支援ができてい

ない。また、日本国内でミャンマー人を中心とした野外集会をすれば、多くの日本人から、日本人をわずらわすなどヤジが飛ぶ現状である。日本在住のミャンマー人は三万五千人。そのうち三千人が難民申請中。中には二十年間も申請を続けている人も。日本の入管施設の冷たい対応、そして、ほとんどの国民がそのことに無関心であることも深刻な問題である。

渡邊先生は、ミャンマー人の牧師と共に、二〇二一年二月から毎週金曜日夜九時から、ZOOMでの祈り会「ミャンマーのための祈り会」を続けておられる。また、昨年八月には「アトゥトゥ（共に）」という支援団体を立ち上げ、ミャンマーの民主化を求めて活動している方々や日本にいるミャンマーの方々の支援を広げておられる。詳しくは、Facebookで「アトゥトゥミャンマー支援」を検索いただきたい。参加者から、「送金先が示されて良かった」との声もあり、献金をささげる人、祈り会に参加する人、祈り会を始める人が起こされている。参加者の感想は社会委員会発行の『声』に掲載予定。

「西日本豪雨真備特集」

「倉敷市民クリスマス」

倉敷水島教会 牧師 小岩 輝



演奏される竹中真さん

二〇二一年十二月二五日（土）、「倉敷市民クリスマス二〇二一」がマービーふれあいセンターにて開催されました。ゲストに、竹中真さん（日本基督教団京都教会員）をお迎えして、ジャズピアノコンサートをお届けすることができました。

開催メンバーには、二〇一八年に生じた西日本豪雨により被災された真備町のために、災害ボランティアとして

携わった方々がおられ、二〇二一年三月末で閉所された「まびくら」の後を引き継ぐ継続支援として行うことになりました。今回の共催には、日本基督教団や岡キ災（岡山キリスト災害支援室）、YMCAせとうちが加わりました。マービーふれあいセンターは、西日本豪雨の際、浸水被害を受け、内装から空調・音響機器に至るまで大きく損傷しましたが、二〇二一年六月二十四日に業務を再開されました。改修工事の結果、一時間でホール全体の空気を入れ替え可能となり、新型コロナウイルス禍でも安心して開催が可能となりました。

竹中真さんは、風のように現れてホールのステージに立たれ、打合せ、リハーサルが軽やかに行われました。敢えて照明を消して姿が見えない中で静かに演奏を始められ、演奏曲のクイズ、クリスマスにイエス・キリストが生まれた逸話、クリスマスソングについてが語られ、ハブユアセルフ・メリークリスマス、ジャズアレンジさ

れた讃美歌ミッドナイトクリアが演奏されるかと思うと、ア・カペラの深い意味を教授されたり、ベツレヘムの町という曲では手拍子を会場の皆さんと合わせたりと、とても楽しいコンサートになりました。その楽しさは、仮に教区ニュース誌の全ページを頂いたとしても満足に伝えることは難しいでしょう。当日お越しになれなかった方や、もう一度倉敷市民クリスマスで演奏されたジャズを聴きたいとお思の方は、以下のインターネットのサイトにアクセスしていただければ、当日の様子の手紙が御覧頂けます。どうぞ司会役のところは飛ばして、竹中真さんの演奏をお楽しみください。世界の平和が、竹中真さんの演奏されるピアノの音のように速やかに進展しますよう、お祈り申し上げます。

(<https://youtu.be/Sr7zczlucM0>)



「絶たれた献身への道」 戦犯にされた元玉島教会員

玉島教会 青木精一

昨年、NHKテレビ「クローズアップ現代+」で取り上げられた、玉島教会員であった「中田善秋」さんのことを、再度、書かせていただきます。

中田さんは、カナダで生まれ小学生のころ帰国し、連島小学校、倉敷商業学校を卒業された後、献身の道を歩むため、東京神学校に進学します。太平洋戦争勃発の年一九四一年十一月、日本軍の宣撫班に徴用され、十一名の牧師とフィリピンに渡航。神学校を卒業したばかりの青年が宣撫班に徴用されたのは、英語が堪能であったことで、当時成立間もない日本基督教団の推薦があったと推測されます。他の牧師は徴用後、一年で帰国したのですが、中田さんはフィリピンにとどまります。そして、日本軍の敗戦色の濃い、一九四五年サンパブロで起こった、日本軍によるフィリピン人と中国人に対する虐殺事件にかかわります。実際、中田さんは、現地の人々を救ったにもかかわらず、肅清に関わった戦犯とみなされ、死刑を求刑されます。最終的には、重労働三十年の判決を受け、

日本のスガモプリズンに収監されます。そこでも彼は常に無実を訴え、裁判の不当性を訴え続けていました。

注目すべきことは、このような苦難の中でも、信仰を捨てることもなく、『信友』というキリスト教の機関誌を獄中で発行し、その内容は、聖書講解や、未信者の戦犯にイエスのことを伝える内容でした。（これは、今年二月に不二出版から、『復刻版 信友』として刊行されました。）

スガモプリズンに収監されている「戦犯」の人たちは、当然、ほとんどの人が釈放を希望しましたが、中田さんは、テレビで放映されたように、出所を希望しないことを表明します。ただ、政府の方針で全員が「釈放」され、中田さんも一九五五年出所しました（収容期間十年）。その後、結婚し子どもも与えられましたが、教会には通うことなく、子どもたちに自分の体験を話すこともなく、長男の住む埼玉で八十二歳の生涯を終えられました。

中田さんは、スガモプリズンに収監されていた時知り合った大学教授に獄中で自分の書いたものなど段ボール箱数箱の資料を預けたそうです。今その資料の解読作業が、大学教授・牧師等で行われています。なぜ、素晴らしい聖書理解をされながら、出所後、教会に通えなくなったのか、教団とのかかわりはなかったのか。

か。私は、彼が洗礼を受けたと思われる玉島教会の会員でもありますし、彼の生き様に引き付けられるものを感じますので、時代は違っても信仰の先輩に謙虚に学んでゆきたいと願っています。また、彼の故郷である岡山在住という地の利を生かして、彼に関する情報・資料を探したいとも思っています。

最後に、私が「中田善秋」さんの名を知ったのは、玉島教会の記念誌作成にあたり目にした古い週報の一行でした。このことから、教会の資料の重要性を痛感しました。無牧の教会も多く、消滅した伝道所もある教区にとって、「伝道の記録」の保管は急務のことのように思われます。

各教会の記録の整理は、このコロナ禍にあつて、意味ある時間だと考えます。信徒の皆さん、情報交換しながら取組みましょう。



『信友』第三号表紙より。絵は難波元雄氏

「第七回『障がい』を 考える全国交流会」

光明園家族教会 難波幸矢

二〇二一年十月四日(月)午後一時
半から五時まで、上記交流会がリモ
ートで開かれました。なんでも二〇二〇
年に予定されていたのですがコロナ禍
で中止になっていたところ、リモート
に会議や研修が慣れてきたので、今回
の形にしたとのことでした。

題は「大人の発達障害の理解と対応」
教会内における寄り添い方。講師
は津田望さん、社会福祉法人のゆり会
理事長、臨床言語士、日本ナザレン教
団五井教会信徒の方でした。

丁寧な資料が二十ページに及び(大
きい写真や文字で分かりやすい)参加
者の名簿もあって、教団実行委員や事
務局の方々も入れて、何と私たちの東
中国キ障共で講演にお呼びした放送大
学教授の精神科医、石丸昌彦先生も参

加していらっしゃりびっくり。石丸先
生の時は教会外の方々が押しかけられ
たのを思い出しましたが、それだけ沢
山の方々が、この件に関して悩み、考
え、どうしたものかと模索している
ことが推測されました。人数は教職
四十五名、信徒十五名でしたが、その
中に自主参加の方が七名いらっしゃい
ました。

内容はここに書けないほど深く広い
ものでしたが、「こんな人はいません
か」に始まり、いきなり次のような言
葉。①空気が読めない、②知的に高そ
うだが偏っている、③集団行動が苦手、
④人の言うことを聞いていない、⑤良
く話すが一方的思い込みが激しい、
⑥会話のキャッチボールができない、
⑦アイコンタクトが少ない、と。うん
うんと頷いていると、次は「発達障害
理解度チェック」と来て参加者に質問。
〇×でお答えくださいと、私たちも試
される。①発達障害は大人になってか
ら初めて発症する、②専門家の治療で
も改善しない、③親が発達障害の場合、

百パーセント遺伝する、④統合失調な
どの精神疾患に移行する、⑤定職につ
けない、⑥幸せな結婚は出来ない、の
六つ。実は全部×なのですがいかがで
したか。このスタートから、なるほど
と納得したり、へーと思ったりの連続
でした。

意外というかそうなんだと思わせら
れたのはASD(自閉スペクトラム症)
について、分かりやすく「テレビ・映
画の中のASD」で、名探偵モンクや
「相棒」の水谷豊がそうだとされる。
またニトリの社長似鳥照雄さんが「三
年前(二〇一八年)発達障害と診断さ
れてホッとした」と。「人のできるこ
とは何も出来ないが、人のできないこ
とができるのでそれでいい」と。

ここではとても伝えきれませんが、
講演が終わり、質疑になったとたん沢
山の方々の質問攻めとなりました。そ
れだけ各教会が対応の仕方が分からな
くて、何とかしたいという思いが大き
いのだと、改めて思いました。

「退任教師挨拶」

岡山教会 大塚 忍



東中国教区の皆様、九年間大変お世話になりました。

わたしは、教

区の会議などで説教を依頼された際に何

度が以下の言葉を引用させていただいた

ことがありました。「リベラリズムの本

来の姿は、（中略）中世末期あるいは近

世における、血で血を洗う宗教戦争の反

省に基づいた、いわゆる『宗教的寛容』

を核とした思想だった。カソリックとプ

ロテスタント、信と信、価値と価値との

間の対立・葛藤、衝突、殺し合いをどう

するか、それらの間にいかにして平和を

もたらすか、信仰が真実のものである限

り、たとえ自己の信仰と異なる、虫酸が

走るほどの嫌悪感をもたらす信仰であつ

たとしても、その存在を断固として認め

よう——こうした確固とした倫理的態度が、リベラリズムの本来の課題と意味だった」（『リベラリズムの再構築』P.14佐藤光）。この言葉通りに生きたいと思っていましたが、残念ながらこのようには生きることができませんでした。けれども今後この姿勢を求めつつ歩んでいくつもりです。東中国教区の皆様のうえに神様の祝福を祈ります。出会いに感謝しつつ。

「東中国教区での九年間に感謝！」

玉野教会 山本博之



二〇一三年

四月に玉野教

会に赴任し、

東中国教区の

仲間に加えて

いただいてから、あつという間の九年間でした。前任地の山形から来た私に

とって、気候が温暖な岡山県、特に玉野市はまさに「晴れの国」そのもので、吹雪や除雪の苦勞のない暖かい冬がとても嬉しく思いました。また、前任地では事務的なことや教会清掃など全て牧師夫婦で行ってきましたが、玉野教会では教会員と共に奉仕することができ感謝でした。

教区では、常置委員として諸教会の課題を知り、具体的に祈りに覚えることが出来たこと、また、教師部委員会の経験も恵みの機会となりました。

新年度の東中国教区総会では重要な議案が控えておりますが、「人間の心は自分の道を計画する。主が一步一步を備えてくださる。」（箴言一六章九節）と信じ祈っております。近年はコロナ感染症の影響で、リモートでしか顔を合わせる機会がなく、そのような状況の中、皆様とお別れすることは非常に寂しいのですが、また、どこかでお会えますことを楽しみにしております。

「こんにちは」のお部屋

「按手礼式」

境港教会

副牧師 中道 順



十一月二十八日
に境港教会
にて東中国教
区の柴田彰牧
師司式のもと
按手礼式を行

いました。新型コロナウイルス感染症予防のため鳥取県内の教会のみのご案内となり、大変失礼いたしました。みなさん

のお祈り、お支えありがとうございました。当日は、八教会の教師及び信徒の方々と共にお祝いすることができました。

正教師試験の時期は園長を務める保育園にて新型コロナウイルス感染症が発生し、私たち夫婦も濃厚接触者として自宅に半月ほどいた時期でした。多くの困難に遭遇する中で、教会での礼拝もできない中で教師としてなぜ主に仕えなければならぬのかというのを改めて問われました。自分自身礼拝によって支えられ、信徒の皆さんとの交わりの中で生かされていたことに気付かされました。

そんな中にあつてもなお守られ、多くの方と共に喜びを分かち合えたことは大きな恵みでした。何よりも今まで歩ん

来ることができたのは皆様のお祈りお支えあつてのことです。自らも祈り、支え合ひながらこれからも主に仕えていければ幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。

編輯後記

平和の祭典オリンピック・パラリンピックが開催され、長く続くコロナ危機にも世界的に團結する思いを高めるべき今という時、ウクライナの地で戦争が勃発してしまいました。ご自身が世の不条理に身を晒されても「剣をさやに納めよ」と命じられた主イエスの言葉が幾度も脳裏を巡ります。どのような時にも武器を取らず、決して戦わない。その真の平和の道をすべての人が選ぶことができますように。世界中で捧げられる平和の祈りに合わせて、一日も早い停戦と和解とが実現するように切に祈ります。

戦いの大きな火が消えることを願い、平和の作り人として私たちは隣人との間で小さな平和の火をそれぞれの場所で灯し続けていきたいと願います。

(W)

 $\overline{W}$

★ハラスメント相談窓口★

每月第三水曜日

午前九時～午後九時

電話番号

○九〇—二三〇—八七三〇

クリスマスは教会へ

